

4月の窓

4月5日は、二十四節気の「清明」でした。万物新鮮になり桜花咲き乱れる頃となります。北国山形では、桜が咲き乱れるのは4月中旬から下旬にかけてとなりますが、いよいよ春たけなわの季節を迎えます。「たけなわ」を広辞苑で調べると、「物事の一番の盛り」と「少し盛りを過ぎたさま」の二つの意味が出ていました。後者の意味の「たけなわ」に関して、俳人の長谷川権さんは、「日本人の季節感を表す大事な言葉で、絶頂を過ぎてやや衰えかけているものを惜しむ思いが含まれている」と書いていました。だから、桜なら満開をやや過ぎて散り始めるころを「春たけなわ」と言い、酒宴なら半ばや過ぎてしまっている頃を「宴たけなわ」と言って惜しんでいるのだそうです。

このホームページの校長あいさつに、「山形東高に勤務するのは20年ぶり」と書きましたが、この20年間に変わったものもあれば、変わらぬものもあり、また以前からあったのに私が気づいていなかったものもあります。

校舎や基準服、体育の運動着などは変わらぬままです。本校では基本的に制服はなく、男子生徒についてはいわゆる学生服を、女子生徒については、無地濃紺のブレザーとひだスカート（またはスラックス）を基準服としています。体育の運動着は、最近どこの高校もしゃれたデザインに変わってきましたが、何十年と同じデザインのようにです。

変わったものとしては、これも校長あいさつに書きましたが、定時制と通信制の課程が閉課程となったことにもない建立された「蛍雪之碑」と「向学之碑」があります。



左の写真が蛍雪之碑、右の写真が向学之碑で、碑の裏側には、それぞれ定時制の課程と通信制の課程の沿革が刻まれています。

以前からあったのに私が気づいていなかったものとしては、東側庭園の木々があります。桜は比較的早く開花するので覚えていましたが、他にも梅や椿の他、卒業生が卒業30年あるいは50年を記念して植樹した松などいろいろな木々がありました。左の写真は、咲き始めた桜（4月17日現在）とその脇にある椿です。椿も紅い花が咲き始め、右の写真は拡大したものです。



私は赴任して2週間以上経つのに、なかなか慣れずに戸惑っておりますが、新入生は入学から10日ほど経ち、蔵王での入門合宿も終え、少しずつ高校生活に慣れてきているようです。以前は、5月に岩手の「国立岩手山青少年交流の家」で新入生の研修を行っていましたが、昨年からは、入学直後の蔵王での研修に変更したそうです。

今月は遅くなりましたが、5月からは月の初めに、学校や生徒の様子などを紹介していきますので、ぜひご覧ください。